

善照寺  
報

# ぜんしょうじ

第19号

〒272-0130 市川市湊十八番二十号 善照寺  
電話 四七(三五七)二二三一  
FAX 〇四七(三九七)一三三二

## 秋も深まり、お十夜をむかえます

善照寺住職 今岡達雄

秋もだんだんと深まり、木々の葉が色づく季節になりました。皆様におかれましてはご健勝のことと存じます。

これまで、この季節は台風による雨漏りが長年の悩みで、畳をあげ雑巾で水を拭きながら台風が過ぎ去るのをじっと辛抱しておりました。しかし、皆様方のご寄付を頂戴した本堂改修工



事が成し遂げられ、本年は心安らかにこの時期を過ごすことが出来るようになりました。これも皆様方のご支援の賜物であると感謝しております。

さて、十一月に入りますと恒例の年中行事「お十夜」をむかえます。「お十夜」は、浄土宗のご本尊である阿彌陀如来への報恩感謝のための法要です。

阿彌陀如来は、欲にまみれ感情に流される無知な私たち凡夫を救うために、「本願」というお誓いを建てられました。そのお誓いを実現するために厳しい修行をして、そして私たちを極楽浄土にお導き下さる力を獲得

されました。その結果、私たちは、この本願というお誓いの力（本願力）によって、たった十回「南無阿彌陀佛」とそのお名前を呼ぶだけで極楽浄土に迎えられるのです。

私たちより先にお亡くなりになったお父さんお母さん、ご兄弟、お子様たち（先亡諸霊位）、あるいは私たちの先祖代々の方々（先祖代々霊位）は、すべて阿彌陀如来の本願力によって極楽浄土に迎えられ、その地でなんの不自由なく暮らしていらっしゃいます。だから、阿彌陀佛に感謝するのです。阿彌陀佛の本願のお力に報恩感謝するのです。これがお十夜です。そして阿彌陀様への感謝とともに、先亡諸霊位や先祖代々霊位の供養のために塔婆を立て、ご回向しております。

本年も下記のようにお十夜法要をおこないと思います。お忙しい中とは思いますが、是非ともお集まり下さい。

合掌

今年も例年のように左記に従って十夜法要を執り行います。お近くの皆様方はお誘い合わせの上ご参加下さい。合掌

期日 平成十八年十一月十七日  
(金曜日)

## 十夜会法要

時間 午後一時から

法話 大本山増上寺布教師 八木英哉師

午後二時から

法要 導師 善照寺住職

千葉教区葛南組御寺院

なお、お塔婆を書くついでがありますので、お塔婆の申し込みはお早めに（十一月十日まで）お願いいたします。

お電話でけっこうです。  
(電話番号) 047-357-2232)

### 住職法話

本願と念仏のおはなし

無量寿経というお経がありま  
す。無量寿とは「阿弥陀仏」の  
ことであり、経とは「おはな  
し」の意味ですから「阿弥陀様  
のおはなし」という意味になり  
ます。お話しの前半は阿弥陀仏  
誕生の物語です。法蔵という名  
の修行僧が修行の目標（本願）  
を建て、全ての目標が実現でき  
るようになって阿弥陀という名  
の仏様になられたことが書かれ  
ています。四十八の本願があ  
り、十八番目に「お十念」する  
者すべてを極楽浄土に救いとる  
と書かれています。ですから私  
達は手を合わせお念仏します。

十日十夜のおはなし

無量寿経というお経の後半に  
次のように書かれています。

「この五悪に満ちる世間にお  
いても、正しい心をおこし、行

いをつつしんで生活し、功德の  
もとたる六波羅蜜の行や五善を  
修する正しい心をもって、一日  
一夜の八齋戒をたもつならば、  
その功德は阿弥陀仏の浄土にお  
いて百年の間、善根を積んだよ  
りすぐれた功德があり、さらに  
十日十夜のあいだ善根を積むな  
らば、その功德は他方の仏国に  
おいて千年の間修した善根より  
もすぐれているのであ  
る。・・・そして仏の教化をう  
けた国や村は平和になって、日  
も月も清く輝き、風雨も時にか  
なつて程よく、災害や疫病はお  
こらず、国は富み、民は豊かに  
なつて、兵器を用いることな  
く、人びとは徳をあげ、仁を  
尊んで礼節や謙譲の道を守るよ  
うになるのである。」

この世は五悪に満ちている

この教典の後半部はこの世の  
中の現状について書かれてお  
り、そこにはこの世の中は五悪

に満ちた世界であると書かれて

います。五悪とは人間の本性で  
す。他の生き物の命を奪わずに  
私達は生きていくことは出来ま  
せん。人は利己主義であり自分  
が生き残るためには他人の物を  
平気で使つてしまいます。いけ  
ないとは分かつていても不倫を  
したり淫らなことをします。他  
人のためといつて平気で嘘をつ  
き、憂さ晴らしに酒を飲んで自  
己を失います。これらを五悪と  
いいます。

- ・ 殺生（命を奪つ）
- ・ 偷盗（盗む）
- ・ 邪淫（淫らなことをする）
- ・ 妄語（嘘をつく）
- ・ 飲酒（自己を失つ）

平和な暮らしには善行を

私達は毎日毎日平和な暮らし  
を望んでいます。その実現のた  
めには善行を積まなければなり  
ません。ただしこれは大変難し  
いことですから一日一夜の善行  
は仏の国での百年分、十日十夜  
の善行は仏の国の千年分の修行

に当たります。善行を積む方法  
は、正しい心をもって八齋戒を  
実行することです。八齋戒とは

- 不殺生（殺さない）
- 不偷盗（盗まない）
- 不淫（性行をしない）
- 不妄語（嘘をつかない）
- 不飲酒（酒を飲まない）
- 不花香伎楽（飾や香水を着け  
ず演劇を見ない）
- 不非時食（午後は食べない）
- 不高广大床（贅沢な蒲団や寝  
台を使わない）

さて皆様はこの八齋戒を守つ  
て、一日一夜でも生活すること  
が出来るとでしょうか。

だから念仏行がある

法然上人がお示しになつて下  
さつた念仏は、誠の心をもって  
信じ願つてお十念を唱えれば、  
修善も修行も全てその中に込め  
られているとおっしゃっていま  
す。ですからお十夜には皆そ  
ろって念仏を唱えるのです。

合掌

# 念仏に 現世利益は ありますか

法然上人のお言葉

『浄土宗略抄』という書物に、法然上人が源頼朝の妻政子（鎌倉二位の禅尼）の要望にこたえて浄土宗の教えを書き示した手紙が有ります。「鎌倉二位の禅尼へ進ぜられし書」とも呼ばれます。その中に阿弥陀さまにお念仏することによって、現世ではどのような利益が有るのかが書かれています。

【原文】  
「阿弥陀の本願を深く信じて、念仏して往生を願う人をば、阿弥陀よりはじめたてまつりて、十方の諸仏菩薩、観音勢至、無数の菩薩、この人を圍繞して、行住坐臥、夜昼をも嫌わず、影のごとくにそいて、もろもろの横

悩をなす悪鬼悪神の便りをはらいのぞき給いて、現世にはよこさまなる煩なく安穩にして、命終の時には極楽世界へ迎え給うなり。」

【現代語訳】

「阿弥陀仏の本願を信じ、極楽往生を願うてお念仏する人に対しては、阿弥陀如来、薬師如来や観音菩薩、地藏菩薩など諸々の仏様や菩薩様、不動明王、金比羅様、弁天、帝釈天などの諸神諸天が昼夜を問わず守り続けてくれ、いつでも影のごとくに寄り添って悪鬼悪神の手を払いのけてくれます。ですから現世において心は安穩であり、後生には極楽に往生できるのです。」

【解説】

お念仏をする者には、阿弥陀仏をはじめとして多くの仏様や菩薩様、諸神諸天が四六時中いつでも私達の頭上を巡ってお

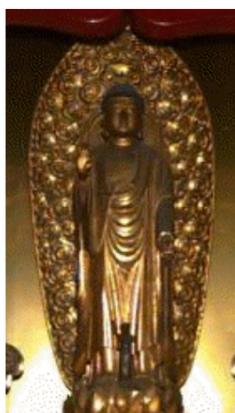
り、悪いことが降りかからないように守ってくれます。そのおかげで現世については安らかに穏やかな生活をおくる事が出来ます。これがお念仏の現世における利益です。

利益をあてにしない念仏

肝心なことは阿弥陀仏の本願を信じ、往生を願う心に偽りがなく、こんな我が身ですら往生が叶うということを疑わずに、阿弥陀さまの来迎を信じお念仏することです。このような念仏をしている人は常日頃から阿弥陀さまの救いの力が働き、かつ、悪いことが起こらないように諸々の仏様や菩薩様が守ってくれるのです。このような利益を当てにして念仏するのではなく、只々、阿弥陀仏の本願を信じ、極楽往生を願うてお念仏するのである。そうすれば求めてもいないのに自然に利益が得られる（不求自得）、これが念仏のご利益なのです。

いつも仏と共に有らん

繰り返しますが、お念仏すると阿弥陀様、観音様、お地藏様、お不動様、弁天様などの諸々の仏様のご加護が得られます。しかしここで注意すべき事は、そのご加護を当てにして念仏することでは有りません。そうではなくて、阿弥陀様の本願



を信じ来世での極楽往生を願うて、日々怠りなくお念仏をすることです。「いつも仏と共に有らん」ことを心がける生活態度、生活習慣が諸々の仏様のご加護をもたらしてくれるのです。「いつも仏と共に有らん」と心がける具体的な方法がお念仏なのです。

合掌

### 仏壇のまつり方

今回は浄土宗のお仏壇のまつり方について標準的な様式を解説します。お仏壇は家庭での信仰の中心であり、本尊阿弥陀仏を安置する正しいやり方です。本来はお亡くなりになった方がいなくてもお仏壇があるのが望ましいことです。

#### 仏壇のおき場所

仏壇には大きいものから小さいものまで種類が多く、地方によつては仏間を設け立派な仏壇を備えている家もあります。また、仏壇を置く部屋とか仏壇の向きを気にする方がおられますが、浄土宗では特に決まりはありません。いつでも家族と共に親しまれ、静かなおつとめのしやすい、家の中心となる場所におまつりすることが大切です。浄土宗の仏壇というきまつた型はありませんが、余りければ

ばしいのは遠慮して、質素でも真心のこもった清浄なものを求めることが肝心です。仏壇は家庭の中心となることを忘れないで下さい。

#### 仏壇内部の本尊

本尊阿弥陀如来の御像は立像が本来です。立像に舟型光背で、手は来迎印、つまり右手は上、左手は下に手のひらを外に向けています。座像でも結構です。木像でなくても画像、または「南無阿弥陀仏」の名号の掛軸でもよろしいのです。いずれも阿弥陀如来が本尊です。

本尊は阿弥陀如来だけでよいのですが、如来のお付きとして、観音菩薩・勢至菩薩を本尊の両脇に（向かって右側に観音、左側に勢至）お祀りすることもあります。また、浄土宗の高祖善導大師、宗祖法然上人の御掛軸又は御木像を向かって右側に善導大師、左側に法然上人をお祀りすることもあります。

#### 位牌

位牌には個々の位牌と繰り位牌とがあります。安置する時、向かって右側が上座です。個々の位牌は三十三回忌から五十回忌をもって先祖代々位牌に繰り入れる事が出来ます。ですから個々の位牌が多くて並べられない場合には整理しましょう。古い位牌は寺に奉納しますが、その時に戒名・俗名・命日などを過去帳に記入します。

#### 仏壇内部の道具

御本尊用の仏飯器・茶湯器、三具足（香炉、花立、燭台）、りんなどが有ります。仏壇の大きさに応じて用意してください。広い場合には五具足（香炉、花立2、燭台2）にするのも良いとあります。仏壇の手

入れは春・秋両彼岸、盆、暮、先祖の命日には特に内部を浄めたいものです。

#### お守り

仏壇のお守りは形式や体裁より先ず真心です。毎朝、仏飯・茶湯などを、家族の食事の前に供え、生花は枯さないようにとりかえ、また季節の初物や頂き物は一度お供えしてから頂くように心がけます。特に朝夕のおつとめは一番大切です。

